

平成20年度環境技術実証事業

山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第3回） 議事要旨

日時	平成20年11月26日（水）13:30~16:00
場所	ニュー新橋ビル B2 ニュー新ホール
出席者 （敬称略）	検討員 相野谷誠志、井田忠夫、岡城孝雄、桜井敏郎、森武昭（座長） 環境省出席者 山根正慎、夏井智毅、勝田孝、信安清則、田畑克彦 事務局出席者 上幸雄、加藤篤、永原龍典
議事	（1）平成20年度実証試験の進捗状況について（非公開） （2）自然地域での非放流式し尿処理設備ニーズ調査の結果について （3）経年実証試験について （4）非放流式し尿処理設備データベースの検討について （5）山岳トイレ技術展示会（仮称）について
配付資料	資料1 実証試験進捗状況について 資料2 自然地域での非放流式し尿処理設備ニーズ調査の結果について 資料3 実証試験後の経年実証試験について 資料4 山岳トイレ技術導入のための事例検索データベースの作成について 資料5 山岳トイレ技術展示会・技術シンポジウムについて
公開／非公開	議事は公開で行なわれた

（1）平成20年度実証試験の進捗状況について（非公開）

- 事務局より、資料1に基づき現在進行中の実証試験の進捗状況について報告を行った。

（2）自然地域での非放流式し尿処理設備ニーズ調査の結果について

- 事務局より、資料2に基づき、全国の地方公共団体に対して行った自然地域での非放流式し尿処理設備ニーズ調査の結果について説明を行った。
- 検討員より、本調査により自然地域における非放流式し尿処理設備ニーズがまだ多く残されていること（ニーズの半分を山岳地が占めている）を把握できたことはとても有益であるとの意見があった。
- 検討員より、海浜では、インフラが無いために改善が図られていないという事例があるが、このような地区での非放流式の認知度は低い印象がある。実証事業の結果を積極的に自治体等に伝えていくことが必要であるとの意見があった。

(3) 経年実証試験について

- ・ 事務局より、資料3に基づいて、小WGにおける検討結果などの説明を行った。
- ・ 検討員より、申請の意思がある企業等に対して、どのようなインセンティブ（外部にアピールできるようなもの）を付与するかという検討が最も重要であるとの意見があった。
- ・ 検討員より、経年変化を把握する際、方式によって違いがあるため、予備調査等において、申請者と専門家がしっかりと合意の上で進められるような場を設定すべきであるとの意見があった。
- ・ 検討員より、試験実施に係る時間的・費用的な効率面から、技術実証委員会を再度立ち上げるのではなく、現在のWGにおいて実施することを検討したいとの意見があった。
- ・ 検討員より、技術に対する見解や指摘などに変化が生じないため、WGにおいて統一的な見方を行うことも必要であるので、経年調査の実証はWGで進めることが望ましいとの意見があった。
- ・ 検討員より、制度の簡略化、申請者へのメリットとして、専門家を交えた技術指導のできる（小WG等の）場を設けることなどが、現実的ではないかという意見があった。
- ・ 環境省より、実証事業としての原則を崩さずに、どのように実施できるか事務局・担当課とともに検討したいとの発言があった。
- ・ 事務局より、申請者に対する過度の負担を避けつつ、より意義のあることとして広めていきたい。また、実証済みメーカーの中でも差別化のツールとして位置づけたいとの意見があった。
- ・ 検討員より、経年試験を行う意義については理解するが、何年後なのかという時間軸と、データとの比較性の確保が必要であるとの意見があった。
- ・ 検討員より、申請者との間でお互いが納得して試験の実施できることが重要であるため、できるだけ早く実施していくことが望ましいとの意見があった。

(4) 非放流式し尿処理設備データベースの検討について

- ・ 事務局より、資料4に基づき小WGにおける検討結果などの説明を行った。
- ・ 検討員より、様々なトイレ・し尿処理方式があることを示したうえで、データベースの利用を促すことが重要であるとの補足があった。
- ・ 検討員より、企業名などが含まれるデータ項目が公開されることが法的に問題ないか確認することが必要であるとの意見があった。
- ・ 検討員より、当初適正な技術選択との話があったが、ここでは事例の検索に止め、評価や主観的なデータは避けたいとの意見があった。
- ・ 検討員より、データベース利用者視点からも、浄化槽などの情報も含めることでよいと考えるとの意見があった。

- ・ 検討員より、現段階で試用版はできると考えられるので、まずは簡易版の作成を行ったうえで、汎用性のあるものへ発展させることが必要である。製作予算も検討して欲しいとの意見があった。

(5) 山岳トイレ技術展示会（仮称）について

- ・ 事務局より、資料5に基づいて、説明を行った。
- ・ 検討員より、どのような参加者層となるか質問があり、事務局より、自治体・企業・山小屋等を想定しているとの説明を行った。
- ・ 検討員より、山小屋の展示についてはどのような趣旨であるのか質問があり、事務局より、トイレ改善事例としての発表を行ってほしいとの説明を行った。
- ・ 環境省より、展示に関しては、実証済みメーカーの出展を中心とするが、ユーザーの立場からも情報提供できるブースを設けたいとの発言があった。
- ・ 環境省より、プログラムについては、実証事業の普及や実証技術のPRに重点を置き、その上で実証結果報告、その他参考事例報告などを中心に、山岳トイレに関する悩みや工夫などについて、ワークショップ的に情報交換ができるような場についても検討していきたいとの発言が出された。
- ・ 検討員より、2日間のプログラムとする場合は、プログラムの基本構成を同じにして、参加者が出席しやすいように配慮することが望ましいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、出展者と参加者において、情報交流を行なってもらえるような仕組みの検討（プログラム及びブース展開）が重要であるとの意見が出された。